

NPO法人

第88号

芦安ファンクラブ通信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。

～芦安ファンクラブの理念～

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ 事務局 南アルプス市芦安芦倉 1578
TEL 090-4135-3193 FAX 055-288-2722 HP <http://ashiyasu.com> メール mail@ashiyasu.com

全校登山日記(仙丈ヶ岳編)

2025.7.7~8 芦安中学校 教頭 安達 敏弥先生

伝統をつなぐ芦安中学校全校登山が、今年は仙丈ヶ岳を舞台に行われました。一人ひとりが自分自身と向き合い山頂を目指して一步一步の歩みを進めた2日間をほんの少しですが、撮影した写真を通してお伝えします。

《全校登山1日目》

結団式で披露した「登山旗」です。2日間の山行を見守ってくれました。頂上でも掲げ、現在は「生徒玄関」に。



《スタート地点の北沢峠》

入山式をして、2班に分かれて9:30頃に、総勢20名の『芦安中登山隊』が出発です！

6月下旬に参加した開山祭では、照り付けるような日差しでした。今日は、すっきりとはいきませんでした。まずまずの天候でした。



生徒の体調や休憩場所の確保等を考え、2つの班に分かれて行動しました。写真は1班が休憩しているところに2班が到着し入れ替わるところです。

☆こんな沢もドキドキ？渡りました！



3時間ほど登り進めると、周囲の植物や山々も見えはじめ、私たちを楽しませてくれました。更に歩みを進めると視界も開け、仙丈小屋が確認できると、疲労でいっぱいだった表情に笑顔が戻ってきました！



14:30過ぎに全員、宿泊場所である仙丈小屋に到着。

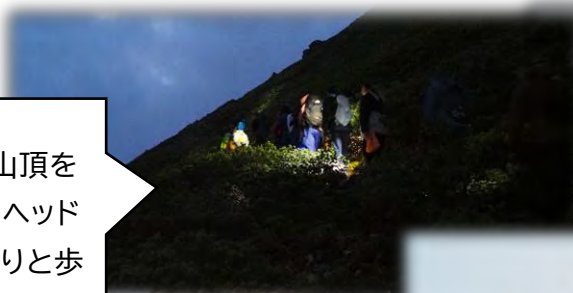
【仙丈小屋での様子】



山頂到着！

《全校登山2日目》

早朝3:30に起床、4:00山頂を目指して2日目スタート。ヘッドライトの光を頼りに、ゆっくりと歩みを進めました。山頂周辺は残念ながらガスで覆われていました。



【下山の様子】



小屋を出発後、馬の背ヒュッテで休憩して、北沢峠を目指し下山しました。みんな疲労が蓄積して足取りが重たくなっていましたが、「事故が多く発生するのは下り」と支援者のありがたい言葉を胸に、じっくり、ゆっくりと歩みを進めていました。幸い大きなけが等もなく無事に北沢峠に戻ってきました。

今回の仙丈ヶ岳全校登山にあたり、登山支援者、支援団体である芦安ファンクラブ、仙丈小屋、馬の背ヒュッテ、こもれび山荘等、さまざまな方々の事前準備から学習、そしてこの2日間にわたり、芦安中仙丈ヶ岳全校登山に対するご理解とご協力に感謝いたします。

生徒のみなさんより

○登山学習を振り返って、初めて知ったことがたくさんありました。その中でも仙丈ヶ岳にある植物や小屋の名前などがすごく勉強になりました。また、その学習したことを実際に見て、学ぶことができ最後により体験ができました。

次に1、2年生の時と比べて継続する力がつきました。登っている時も友達としりとりや励まし合いながら楽しく登ることができました。

また、一緒に登ってくださった芦安ファンクラブの人たちの協力もあり無事に帰ってくることができました。本当に感謝でいっぱいです。

○山頂までの道のりや仙丈にある高山植物・動物や氷河期・カールなど普段の学習でふれないことや興味がないと調べない内容を調べたり覚えたりすることができて良かった。

また、現地へ行って理解を深めたり、役立つことばかりだったので、登山学習を通して知識がまた一つ増えたと思った。登山をきっかけにカメラという楽しい趣味もできてよかった。登山学習で学んだ写真には見えなかった景色も自分の足で登って自分の目、自分の体で感じるすることができて良い経験になった。

○事前学習で高山植物を学んで実際に登山をしたときに本物の高山植物が見られて感動しました。

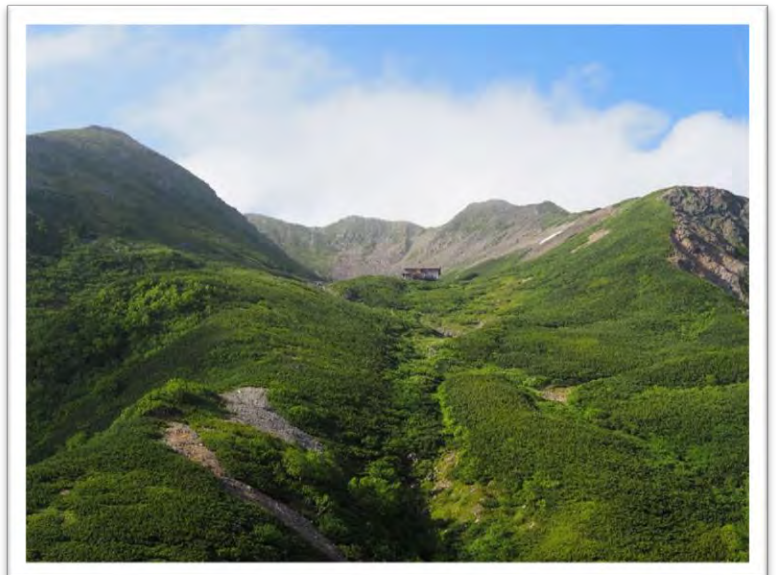
今年は山頂に着いてご来光が見られなかったので来年はきれいなご来光が見たいです。

○私が登山学習をして思ったことは、本格的な登山はものすごく大変だなと思ったことです。どれだけ歩いても、小屋が見えなくて、ものすごく足が痛かったです。でも、先輩たちと登れたことがすごく嬉しかったです。小屋でも女子会？的なのができるものすごく楽しかったです。来年は鳳凰山に登るので今年よりも、もっと体力をつけて楽しく登りたいです。

○仙丈ヶ岳の地形についてよく学べました。仙丈ヶ岳を登ったのは良い思い出でした。

○山の素晴らしさは、自然と人が共生しているところです。

○疲れましたが、楽しかったです。





第82回登山教室 夏の仙丈ヶ岳

2025.8.16~18

芦安ファンクラブ (ガイド) 望月 泰孝

第82回登山教室は、南アルプスの女王と呼ばれる仙丈ヶ岳(3033m)に登った。

深田久弥は、日本百名山を紹介する中で「私の好みで、日本アルプスで好きな山は北では鹿島槍、南では仙丈である。何よりその姿が良い。」と讃えている。

原生林、岩稜、カール、お花畑そして大展望の広がる 3000m 級の山を2泊3日のゆったりした登山。天候にも恵まれ、素晴らしい山行になった。

参加者は、県内の女性3人と静岡県の母子2人の5人で、10歳の奏太郎君は、小学5年生。昨年の北岳にも参加していただいた。

16日朝7時に芦安を出発し、車で移動。戸台パーク手前の「道の駅 南アルプスむら長谷」に立ち寄ると、朝9時なのにお目当てのパンは売り切れだった。それでは、と帰りにも寄ったが定休日になっていた。藪沢手前のヨツバヒヨドリ群生地に、アサギマダラが数十頭群がるのをカメラに収めた。



長衛小屋に11時前に着き、管理人の千葉君に勧められ、予定にはなかった仙水峠まで往復することになった。曇り空の中一時間ほどで仙水峠。岩に腰かけて昼食にした。雲間に、摩利支天と白い甲斐駒の姿が浮かび上がり歓声が上がった。

小屋に戻り、千葉君から南アルプス開拓の父「竹澤長衛氏」の話聞き、夕食後、奏太郎君は、小屋の前の沢で千葉君の指導のもと、夏休みの自由研究の宿題の参考に、イワナ、オオサンショウウオの幼生を観察した。

17日は5時に小屋を出発。1時間歩いて二合目で休憩。小屋から頂いたおにぎり朝食を戴いた。原生林の中の登山道は、晴れているが涼しい。大勢の登山者が行き交う、五合目の大滝の頭で大休止。

17日は5時に小屋を出発。1時間歩いて二合目で休憩。小屋から頂いたおにぎり朝食を戴いた。原生林の中の登山道は、晴れているが涼しい。大勢の登山者が行き交う、五合目の大滝の頭で大休止。

17日は5時に小屋を出発。1時間歩いて二合目で休憩。小屋から頂いたおにぎり朝食を戴いた。原生林の中の登山道は、晴れているが涼しい。大勢の登山者が行き交う、五合目の大滝の頭で大休止。

五合目からは、大きな岩があり傾斜がきつくなる。樹高が段々低くなり、振り返ると昨日の仙水峠と甲斐駒が見えた。暫くすると樹木の背丈が低くなり、展望が広がる。奏太郎君が降りてくる人に「ライチョウ見ましたか?」と問いかけると、数人から見たとの回答を得る。場所を聞くと、小仙丈の先の岩場の手前と左が小仙丈カール付近の2箇所との回答がある。然し、その付近で探したが発見できなかった。天気が良く、登山者が多いので隠れたのかと諦めていたが、仙丈ヶ岳から藪沢カールに下る手前の地蔵尾根が合流する尾根で母子2羽のライチョウに逢う事が出来た。

山頂では、南側に雲が湧いてきて展望が無くなってしまったが、瞬間的に、富士山、北岳、間ノ岳の1, 2, 3位の山が雲の間に浮き上がって見えた。大勢の登山者が入れ代わり立ち代わり登ってくる。記念撮影をして昼食にした。



馬の背を下るあたりから、虫や蝶が沢山飛んでいた、妨鹿柵が設置されている処では植物が良く育って花の蜜を求めて集まっている。馬の背ヒュッテから沢に下り、藪沢小屋を経由して大滝の頭に至り、長衛荘小屋に戻った。



第83回登山教室 秋の甲斐駒ヶ岳

2025.9.20~22



芦安ファンクラブ (ガイド) 岩間 修

北沢峠から甲斐駒ヶ岳に行ってきました。2泊3日なので余裕かなと思いきや、予定は沢山。

初日は雨の為、長衛小屋に入り「竹澤長衛氏」と北沢峠の歴史の勉強(小屋のみなさんありがとうございました。)その後 1/25000 地形図で尾根と谷の読み方講習。

2日目は天気予報を信じて、雨の中5時に出発。予報通り7時頃には雨も止み、山頂では快晴。北アルプス方面は雲の中でしたが、南アルプスの南部は綺麗に見えました。

3日目は下山だけですが、10時のバスが出るまでファンクラブの会長が用意した資料を使い苔の観察・勉強会。

皆さん、お疲れ様でした。



参加者の皆さんより

岐阜県関市 天野 久美さん

第80回登山教室に参加させていただき、とても楽しく、新しい山友さんもでき、下山してすぐに、第83回の登山教室、甲斐駒ヶ岳に参加を決めました。お天気が心配でしたが、やはり2日目は朝から雨。みんなのテンションも下がり気味でした。それでも、高度をあげるにつれ、青空が見え始め、途中から甲斐駒ヶ岳の姿を見ると、あと少し、とテンションも上がりました。



山頂は、雲が取れて快晴。写真撮りまくりとなりました。下山途中から、乾杯しようと盛り上がり、夕食のあとは、ガイドさん、メンバー6名と登頂を祝して乾杯！楽しい夜となりました。地図読みも苔の勉強会も、なるほど、と思うことが多く、これからは無関心ではいられなくなりそうです。

ガイドさん、メンバーに恵まれ、辛いだけではない楽しい山行となりました。景色にも大満足でした。

また登山教室に参加したいと思います。ありがとうございました。



富士川町 杉田 三津江さん

2泊3日の登山教室では大変お世話になり有難うございました。雨の中の出発でしたが、予報通り青空も見え始め甲斐駒ヶ岳の雄姿に心躍りました。息を切らしながら頂上に着くと 360 度の眺望に疲れも吹き飛びました。憧れの山に登頂できたことが誇らしく、来年の北岳登頂という目標に一步近づきました。

今回は、登山日の前後が山小屋泊のため、ザックが軽く助かりました。経験豊富なガイドの岩間さんの適切なサポートがあり、後ろから登山仲間の松本さんに支えられ、無理なく安全に登頂することができました。私の登るペースにお付き合いしてくれた参加者の皆様にもお礼申し上げます。良い出会いが嬉しく、また山で再会するのが楽しみです。

長衛小屋では食事もお弁当もとても美味しく、細やかな心配りも有り快適でした。2階への移動は梯子でなく階段なので夜中の移動も安心でした。

これは私の失敗談ですが帰りの日、いざバスに乗ろうという時、チケットやスマホを入れたポシェットが見当たりません。小屋に戻ると次のバスは3時間後。そこへ長衛小屋のご主人(千葉さん)がポシェットを持って駆けつけてくれました。優しい笑顔に緊張がほぐれました。嬉しくて有り難くて、本当に感謝感謝でした。

来年も登山教室に参加させていただくつもりです。次は失敗のないよう気を付けたいと思います。

身延町 松本 小百合さん

桜の向こうに白く鋭く輝くかっこいい山が…
「あれは甲斐駒ヶ岳」と教えられ、一目惚れ!

早速登山教室に申し込みました。そして、ついに「あの頂に!」という夢が叶いました。芦安ファンクラブの皆さん、ガイドの岩間さん、登山教室で出会えた皆さん、楽しい山行をありがとうございました。

登山教室では、山小屋の歴史講話や地図読みの勉強会、苔の観察会がありました。また、長衛小屋の美味しい食事と自然に包まれるゆったりとした時間をたっぷり味わうこともできました。本教室を通して「山に登る」

ということの奥深さや新たな魅力を教えていただきました。さらに3日間を共にした味わい深い人柄の仲間との出会いが、この山行の大きな土産になりました。

眺めてよし、登ってよしの甲斐駒ヶ岳に惚れ直しました。

芦安ファンクラブの皆さんの日頃の活動に感謝しお手本としながら、私も南アルプスの前衛の山となる櫛形山で「櫛形山を愛する会」にて環境保全等の活動を続けていきたいと思ひます。



おいけ自然観察記・秋から冬へ

芦安ファンクラブ(白根御池小屋) 吉澤 香理



9月下旬。稜線の草紅葉から始まる北岳の秋は、小屋の周りを黄色く染めて広河原へと駆け下りていきました。北岳の紅葉といえばダケカンバ。黄色いカンバのトンネルを歩くのは秋ならではの楽しみです。

10月半ば、夜がぐっと冷え込むと雨戸の隙間にコウモリがやってきます。

ウサギのようなかわいい顔と霜降り状の焦げ茶色の体毛。ヒナコウモリ科の一種ではないかと思っていますが、なかなか同定が難しいです。

雨戸からキキキと声をする時は大抵彼らが休んでいます。どうしても姿を確認したくて雨戸を開けてしまうのですが、今年は狭い隙間にぎゅうぎゅうと8個体も納まっていて驚きました。



北岳も冠雪した10月下旬。木の葉が落ち、人の往来が減ってくると小屋の前でたくさんの鳥を観察できます。

特に印象深かったのは黒く小さなミソサザイ。浄化槽周りでウジを食べ、自分より大きな鳥を追い払い、時には小屋の中にも迷い込み、いつも尾を立て鳴きながら活発に動き回っていました。

そして、初めて姿を見ることができたキクイタダキ。鈴のような声で鳴き、動き回る際に一瞬見えた黄色いリーゼント！とても嬉しかったです。

暖かな年には雪と縁のない御池小屋ですが、営業最終日の11月3日に雪が降り小屋周りも10cm程の積雪となりました。

雪が降った翌朝は、動物の足跡を追いかけます。

小屋の前を緩やかに歩くのは二ホンジカ。こげ茶色の冬毛に変わった3又ツノの立派なおすは、昼にも現れ小屋の前で悠々と草を食べていました。

あちこちを駆け回っているのはオコジョ。胴長の小さな足跡を追いかけると驚くほど狭い隙間にも入り込んでいます。今年は姿を見たのが一度きり。元気に活動していることがわかり安心しました。

森から森へ小屋をかすめるように歩く丸っこい足跡はテン。ゴミのトン袋(ヘリで空輸するために荷造りした袋)に飛び乗り、小屋裏の斜面に飛び移り、森へと去っていったようです。

雪のおかげで見えたこれらの行動は、気付かないだけで毎日のように行われているはず。そしてもちろん、今この瞬間も静かになった小屋の周りでは変わらない生き物たちの時間が流れています。

そんな当たり前のことが不思議と愛おしく、仕事の合間にその一端を見ることは私の喜びのひとつです。

また次の春がきて、たくさんの生き物に会えることを楽しみにしています。



芦安の名所紹介

【白い牙の里「あしやす」】

芦安ファンクラブ 伊井 和美

南アルプス市芦安は甲斐犬発祥の地として全国に知られているほど、「甲斐犬」と言えば芦安である。

甲斐犬は大正の終わりごろ甲府市内にある小林家畜病院の初代医院長小林承吉により、宮本村(現在の甲府市)で発見され「甲斐日本犬」と命名された。

昭和7年には芦安村(現在の南アルプス市)と西山村奈良田(現在の早川町)で鹿型甲斐犬が発見され、「甲斐日本犬」の天然記念物指定の申請が行われた。

この年の5月、名称も「甲斐犬」に変更され、「天然記念物」指定調査のための甲斐犬展覧会が開催された。昭和9年1月 21 日には、文部省告示第 16 号で「甲斐犬」が秋田犬に次いで2番目に国の天然記念物に指定され、現在も多くの愛犬家に愛されている。

性格は、初対面の人に対しては威嚇するが、主人や家族に対して忠実で従順であり、「一代一主」と言われている。基本的には素朴で素直でとても頭がよく、温和である。

現在、県外の方からも多くの問い合わせがあり、我が家で生まれた甲斐犬の子供たちも、遠くは熊本県を始め三重県、東京都、神奈川県、静岡県などで元気に育っている。

また、一度一緒に暮らした人は次も必ず甲斐犬を探しにやってくる。

山梨県芦安発祥の甲斐犬は現在全国で愛されている。

